

## 報告：平和のための京都の戦争展 学生対話企画

核兵器廃絶ネットワーク京都 世話人 前田耕治（日本科学者会議京都支部幹事）

7月31日から長浜バイオ大学京都キャンパスで開催中の「平和のための京都の戦争展2022」の最終日となった8月7日、JSA京都支部も加わる核廃絶ネットワーク京都の会が主催となって、学生対話企画「核兵器をどう思うか—現代の若者に聞く」が開かれた。

前半は、立命館大学のみらいゼミ「なぜ戦争が起きるのか」に所属する3名の学生が一人ずつ核兵器を取り巻く問題について約15分の発表を行った。それぞれに専門や興味を生かして、国際関係学部のAさんは「国際法」の視点から、同学部のBさんは「市民社会」の視点から、産業社会学部のBさんは「環境」の視点から核兵器について考察した。

Aさんは、核兵器禁止条約が締結された背景、同条約締結の国際法的意義、同条約の普遍化について述べた。1つめの背景については市民社会運動 ICAN の貢献が大きいこと、2つめの国際法的意義については、裁判規範としての正の側面と締約国が少ないという負の側面に触れた。3つめの普遍化については、多くの国が批准することで国際慣習法のような条約になるのが重要ではないかと述べた。

Bさんは、1992年に国際司法裁判所から核兵器禁止の勧告的発言を引き出した際の700以上の団体による国際法廷運動に注目し、地球市民社会が国際司法裁判所を動かしたと述べた。つぎに、2017年に核兵器禁止条約が採択された際に貢献した、ノーベル平和賞受賞団体の ICAN に注目した。とくに、2022年の同条約締約国会議と同時に開かれた ICAN 市民フォーラムでのアンケート活動にヒントを得て、みずからも SNS を通じて核兵器に関するアンケートを行い、大学生を中心に135名から回答を得た。「核兵器の影響を受けたことのある人に会ったことがありますか」に対しては「はい」が45%、「核兵器は次にいつ使われると思いますか」に対しては「自分が生きている間に」の回答が最多の60%であった。「核抑止論」については、「正しい」が31%、「間違っていると思うが説明できない」が25%、「わからない」が27%であった。まとめとして、条約を作る主体は市民社会であり、条約を締結し軍縮する主体は国家であり、両者の協力が重要であると述べた。

Cさんは、グレタさんで有名になった Friday for Future の気候変動に関する環境運動を紹介したうえで、環境問題や SDGs の視点から核兵器禁止を考察した。とくに、核兵器禁止条約の第6条「被害者援助と環境回復」と第7条「国際的協力と援助」に注目した。同条文では、広島・長崎での核兵器の使用や2000回以上の核実験による被害者への支援や汚染地域の環境改善、支援の義務化を定めている。英仏、マーシャル諸島などの被爆者はデータや知見が揃っている日本の支援を求めており、そこに日本の先導的役割があることを強調した。そして、地球地図を示しながら、核兵器禁止条約の締結国・署名国が気候変動による負の影響を受けているグローバルサウスの国々と一致することを示した。そして、核兵器と環境問題の解決のための共通点が、グローバルノースとグローバルサウスの分断を乗り越えること

にあると述べた。まとめとして、核兵器廃絶運動と気候変動に関する運動が連帯することで、世界が大きく変わる可能性を述べ、そこに人口の3.5%が関われば変化が生まれる「3.5%ルール」を紹介したうえで、地球平和の可能性を訴えた。

後半は会場から集められた質問用紙をもとに質疑応答が行われた。一部を紹介する。「核抑止論のロジックから抜け出すために必要なことを3人のそれぞれの観点から教えてください」という質問に対して、Aさんは、法律としては戦争を抑えるために核兵器をもってよいということにはなっていないと述べた。Bさんは、広島市の内外での温度差の経験から、「事実を知る」ことから始める重要性を指摘した。Cさんは、核兵器にかかる経済力があれば、どれだけの環境問題や貧困など他の課題を解決できるかということ、データを説得することが重要であると述べた。他にも、「戦後77年になり、グローバル被爆者が地球からいなくなっていくことに対してどうしたらよいか」という質問には、広島市内出身のAさんが被ばく2世から3世へと継承していくことの重要性や、ビデオなどで貴重な証言を残すことが大事であると述べ、Bさんは自分の経験から口伝えの話を絵に残す方法があると回答した。また、Cさんの環境問題の視点は若い人や主婦層に浸透しやすいので大事な視点であるとの意見が会場から紹介された。

最後に司会の遠藤あかりさんより、長崎を最後の戦争被爆地にするためには弛まぬ努力が必要であり、被爆者がいなくなることに備えて、自分たちとその後の世代が何を受け継いで何をしなければいけないのかを今のうちから考えておくことが重要だと締めくくった。

最後に、主催者を代表して、今回の事前学習会の講師でもあった、被ばく二世・三世の会の平さんから、先日の参院選で巻き起こるべきであった議論がここで行われたと締められ、閉会となった。